

# 日本 RNA 学会会報

No.21 (2010 年 2 月)

## 目 次

巻頭言.....	1
日本 RNA 学会 第 5 期役員 役員会議事録 .....	2
日本 RNA 学会 第 11 回総会報告 .....	3
日本 RNA 学会 第 6 期評議員選挙について .....	4
2008 年度日本 RNA 学会収支決算報告書 .....	6
2009 年度収支予算 .....	8
第 12 回 RNA ミーティング (日本 RNA 学会年会) の 準備状況について.....	9
CDB ミーティング “RNA Sciences in Cell and Developmental Biology” 開催のご案内 .....	10

日 本 R N A 学 会  
(THE RNA SOCIETY OF JAPAN)  
[wwwsoc.nii.ac.jp/rnaj/](http://wwwsoc.nii.ac.jp/rnaj/)

## 巻頭言

会長 中村 義一

2009年のノーベル化学賞が、リボソームの構造と機能に関する研究に従事した3名のX線結晶構造学者、Venki Ramakrishnan、Tom Steitz、Ada Yonathに授与された。受賞理由は、リボソームの高分解能結晶構造を解明し、タンパク質合成の分子機構においてこれまで明らかでなかった基本問題を解決して、基礎科学と医学に対する先見的な貢献をなしたというものであった。リボソームの原子レベルの構造を明らかにすることは生命科学の大きなチャレンジだったが、ついに3Åをこえる高分解能でリボソームの構造が明らかにされ、3名の受賞となった。リボソームの結晶構造研究におけるパイオニアはYonathで、1980年代に各種細菌リボソームの結晶解析を精力的に進め、低分解能ながら結晶構造研究に道を拓いた。90年代のテクノロジーの発展がリボソームの構造解析を大きく後押しし、構造決定が現実味をおびてきた90年代半ばに、SteitzとPeter Mooreのエール大学チーム、Ramakrishnan、クリオ電顕を専門とするJoachim Frank、そしてリボソーム生化学的研究のパイオニアであるHarry Nollerがレースに参入。熾烈な競争、バトルが開始され、2000年前後に中分解能から高分解能のリボソームの結晶構造がほぼ同時に4グループによって報告され、今回の受賞につながった。

ノーベル化学賞の選考委員には、タンパク質合成の研究者でもあるAnders LiljasとMåns Ehrenbergも参加していたため、リボソームの構造解明に対してノーベル賞がでることは時間の問題だと考えていたが、同時に、3名に絞ることの難しさ、言い換えれば、他の候補者を除外することの難しさが受賞を遅らせる最大の要因であろうことも十分想像できた。最終的に、Ehrenbergが執筆した受賞理由には、結晶構造の高分解能と医学への応用という2点が指摘されている。その意味で、2000年に3Åに達した3名の業績(50S、30Sサブユニット単体)が評価され、5.5ÅのNollerの業績(70Sリボソーム)は不十分と判断されたようである。また、抗生物質のリボソーム結合部位の同定が医学への貢献として評価されており、タンパク質合成のメカニズム研究に専念したNollerやFrankは医学

への貢献がなく、選外にもれたようである。しかし、70Sリボソーム結晶の解析は30Sや50Sサブユニットに比較してより難しく、リボソームの機能を理解する上でより重要な成果であるため、Nollerの成果を過小評価する理由はないように思う。また、抗生物質のリボソーム結合部位の同定が、リボソームの本質的なメカニズム研究を越えるほどの意義をもつとは思えない。いずれにしても、リボソームの構造研究が受賞対象となったことは同じ分野の研究者にとっては慶事であり、友人として3名の受賞を祝福するものの、「除外する」ことの難しさ（あるいは後味の悪さ）を痛感する。

私の会長としての任期も、この3月で2期4年を無事に務め終えることができ、これも会員皆様のご支援と熱意の賜物と、ここにお礼を申し上げます。2011年6月に開催予定のRNA Society Meeting (京都) については、引き続きOrganizersの一人として会議の準備を進めていきたいと思っております。昨年11月にはRNA Society Boardメンバー4人が京都国際会議場をsite visitし、これまでとは違った、新たな会議スタイルの成功に自信と期待をもったようです。皆様とともに、アジアで初となる、RNA Society Meetingを成功させたいと思っております。今後とも、よろしくご協力をお願い致します。

## 日本RNA学会 第5期役員 役員会議事録

日 時：2009年7月27日(月) 12:00～13:00

場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター内 202会議室

出席者：第5期評議員：饗場弘二(副議長)、稲田利文、井上邦夫、大野陸人、坂本 博、塩見美喜子、鈴木 勉、谷 時雄、中村義一(会長)、廣瀬哲郎

役 員： 井川善也、内海利男、坂本泰一、吉久徹

1. 開会挨拶
  - ・中村会長が開会挨拶を行った。
2. 活動報告など
  - ・吉久庶務幹事が会員数推移、会費納付率などの現状を報告した。
  - ・第12回年会について年会世話人の鈴木集会幹事から、候補日時・候補地(2010年8月3～5日・東京大学弥生講堂)について、説明がなされた\*。
3. 2008年度会計報告・2009年度予算案
  - ・坂本会計幹事が2008年度の収支決算報告を説明し、この会計報告書が会計監査委員(松藤・剣持委員)によって承認されたことを報告し、了承された。
  - 引き続き、会計幹事より2009年度予算案が説明し、了承された。
4. 第11回年会準備・開催状況について
  - ・内海集会幹事より7月27日時点での参加者数など、本年度年会の開催状況についての報告があった。
5. 第11回総会議長・副議長の推薦
  - ・中村会長より、第11回総会議長に泊幸秀氏を、副議長に北尾紗織氏を推薦したいとの意向が伝えられ、了承された。
6. 年会世話人(2012年集会幹事)の推薦
  - ・中村会長より、2011年年会がInternational RNA Society Annual Meetingとして開催されることに鑑み、2012年の集会幹事候補の選考に入るべきとの提案がなされ、剣持直哉氏を主な候補として人選を進めることが了承された。
7. International RNA SocietyのAnnual Meetingの日本開催について(2011年)
  - ・中村会長より、2011年のInternational RNA SocietyのAnnual Meeting日本開催に関して、現状報告と協力要請があった。
8. その他
  - ・新公益法人法の施行に伴う学協会の法人格取得動向について吉久庶務幹事より報告があり、当面は他学会の動きを見つつも静観する方針が話し合われた。

\*なお、この件に関しては、既に各会員にはp.10、「第12回RNAミーティング(日本RNA学会年会)の準備状況について」にあるように日時・場所とも変更されたことが、後日、鈴木集会幹事よりメールで連絡されている。

(庶務幹事：吉久 徹)

## 日本RNA学会 第11回総会報告

日時：2009年7月28日(火) 17:00～18:00

場所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター スノーホールA

1. 中村会長が開会挨拶を行った。
2. 総会議長に泊幸秀氏、副議長に北尾紗織氏を選出した。
3. 委任状および議場参加者の確認を行い、総会成立に必要な100名を越えていることが泊議長から報告され、総会の成立が宣言された。
4. 吉久庶務幹事より、下記の報告が行われた。
  - ・2009年7月21日現在、正会員598名(一般会員402名、学生会員195名)、寄贈・賛助会員は16団体、名誉会員は1名。会員数はほぼ横ばい。
  - ・事務局から会費納入と、自動引き落としの依頼、および、所属情報のアップデートの依頼があった。
5. 坂本会計幹事から2008年度の収支決算の説明、会計監査委員による同決算の監査結果が報告され、異議無く承認された。
6. 坂本会計幹事から2009年度予算案が提出され、異議無く承認された。
7. 内海集会幹事より、第11回年会の開催状況が報告された。
8. 第12回年会世話人の鈴木集会幹事から、第12回年会は2010年8月3日(土)～5日(月)に東京大学弥生講堂で開催予定であることが説明された\*。
9. 中村会長より、2011年のInternational RNA SocietyのAnnual Meeting日本開催に関して、現状報告と学会員への協力要請があった。
10. 泊議長より、閉会の挨拶があり、総会が終了した。

\*なお、この件に関しては、既に各会員にはp.10、「第12回RNAミーティング(日本RNA学会年会)の準備状況について」にあるように日時・場所とも変更されたことが、後日、鈴木集会幹事よりメールで連絡されている。

(庶務幹事：吉久 徹)

## 日本RNA学会 第6期評議員選挙について

日本RNA学会会則第11条と同細則第7条によって、第6期評議員選挙を行います。第6期評議員の任期は、2010年4月1日から2012年3月31日です。具体的には下記のように選挙を行うことになりましたので、会員各位のご協力をお願い致します。

### 記

今回の選挙における選挙権者、被選挙権者は2009年12月までに入会手続きを行った正会員とします。正会員の中から10名を選んで、その氏名を同封の投票用紙にご記入下さい。投票用紙を同封の小封筒(「投票用紙在中」と印刷)に入れ、封をした後、同封の送付用封筒(「日本RNA学会選挙管理委員会御中」と印刷)に入れて、ご自分の住所、所属、氏名をご記入の上ご送付下さい。

なお、日本RNA学会細則第7条3項の規定(次ページ参照)によって、すでに3期連続して評議員を務めている下記2名の方は、第6期評議員の被選挙権がありません。下記の方には、投票なさらないようお願いいたします。

井上邦夫 大野睦人

投票締切日：2010年3月8日(月) 必着

投票者の決定：得票数の多い順に10名を当選者とします。同数得票の場合は年長順とします。投票結果は、学会ホームページと会報にて公表予定です。

なお、次の場合には投票が無効となりますので、ご注意ください。

- 1) 投票用紙に11名以上連記した場合。ただし10名未満の場合は有効です。
- 2) 投票者の氏名が送付用封筒(投票用紙を直接入れる小封筒ではありません)に記入されていないとき。

第6期評議員選挙 選挙管理委員会

稲田利文

佐藤 豊

吉久 徹



【参 考】

会則（抜粋）

第10条 本会には、会長1名、評議員若干名、会計監査2名の役員をおく。

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 評議員は評議員会を構成し、本会に関する諸事項を審議する。
3. 会計監査は本会の会計を監査する。

第11条 評議員は正会員の中から正会員の投票により選出される。会長は評議員の互選により定める。会計監査は評議員、幹事以外の正会員の中から評議員の投票により選出される。役員の任期は2年とする。

細則（抜粋）

第7条 評議員の選出は次のように行う。

1. 会長は正会員の中から3名を選んで選挙管理委員を委嘱する。選挙管理委員会は選挙事務を行う。
2. 投票は1人1票、無記名10名連記とし、郵送によるものとする。
3. 評議員は連続して4回選出されることはできない。この制限に抵触する者の氏名は選挙要項に公告される。
4. 得票者中の上位の者より順に10名を選出する。同数得票者については選挙要項に従って順位を定める。

第8条 新会長の選任は次のとおり行う。

1. 会長は新評議員を招集する。新評議員の互選により新会長を選ぶ。
2. 投票は無記名单記とする。投票総数の過半数を得た者を新会長とする。
3. 投票総数の過半数を得た者がいないときは、高点順に2名をとり改めて投票を行い、最高点者を新会長とする。このとき同点の場合には抽選により決定する。
4. 会長は連続して3回選出されることはできない。
5. 会長は評議員を兼ねるものとする。

2008年度 日本RNA学会 収支決算報告

2008年度（2008年4月1日～2009年3月31日）の学会会計収支予算は以下のようになりましたのでご報告いたします。

（2008年度会計幹事：坂本泰一）

収入の部			
科目	予算額	決算額	備考
学会費	2,604,000	2,603,413	一般会員会費 2,338,413
賛助会費	540,000	270,000	学生会員会費 199,000
雑収入		4,123	入会金 66,000
預金利子	3,000	2,774	
収入小計	3,147,000	2,880,310	
前年繰越金	2,281,674	2,281,674	
合計	5,428,674	5,161,984	
支出の部			
科目	予算額	決算額	備考
事業費	1,200,000	2,052,666	
年報発行	200,000	159,916	No.18,19会報制作印刷
年会補助金	1,000,000	800,000	第10回補助金（2006年度に20万円準備金）
		1,000,000	第11回準備金
その他	0	92,750	第10回クバプロ費用
評議員費	110,000	40,530	
旅費・会議費	100,000	40,530	
その他	10,000	0	
業務委託費	682,500	682,500	クバプロ
一般事務費	280,000	209,635	
印刷通信費	170,000	191,171	会報発送等
庶務事務費	30,000	0	
雑費	80,000	18,464	振込手数料
予備費	50,000	0	
支出小計	2,322,500	2,985,331	
次年度繰越金	3,106,174	2,176,653	
合計	5,428,674	5,161,984	

## 監査報告書

### 監査報告書

日本 RNA 学会

会長 中村 義一 殿

平成21年 6 月 17 日

会計監査委員 松藤 千弥



剣持 直哉



2008年度日本 RNA 学会会計報告書について、関係書類とともに

その内容を慎重に監査した結果、正当であることを認めます。

## 2009年度 収支予算

2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)の学会会計収支予算は以下の通りです。

(2009年度会計幹事：坂本泰一)

収入の部			
科目	2008年度	2009年度	備考
学会費	2,604,000	2,691,600	一般会員会費 2,460,000 (7,500円×410名×0.8)
賛助会費	540,000	420,000	
預金利子	3,000	3,000	学生会員会費 231,600 (2,000円×193名×0.6)
収入小計	3,147,000	3,114,600	
前年繰越金	2,281,674	2,176,653	
合計	5,428,674	5,291,253	
支出の部			
科目	2008年度	2009年度	備考
事業費	1,200,000	1,200,000	第12回年会準備金
年報発行	200,000	200,000	
年会補助金	1,000,000	1,000,000	
その他	0	0	
評議員費	110,000	110,000	
旅費・会議費	100,000	100,000	
その他	10,000	10,000	
業務委託費	682,500	682,500	会員600名以上のため
一般事務費	280,000	280,000	
通信費	170,000	170,000	
庶務事務費	30,000	30,000	
雑費	80,000	80,000	
予備費	50,000	50,000	
支出小計	2,322,500	2,322,500	
次年度繰越金	3,106,174	2,968,753	
合計	5,428,674	5,291,253	

## 第12回RNAミーティング (第12回日本RNA学会年会)の準備状況について

第12回RNAミーティングを2010年7月27日(火)から29日(木)の予定で、一ツ橋記念講堂(東京都千代田区)にて開催致します。

前回、東京で開催されたのが、中村義一会長主催による第2回のミーティング(品川プリンスホテル)ですので、ちょうど10年目にあたります。その間、RNA干渉の発見と医療技術への応用、ヒトゲノム解析とRNA新大陸の発見、そして記憶に新しい、リボソームの結晶構造がノーベル化学賞を受賞するなど、RNA研究は大きく発展し、基礎研究のみならず、医療・医学の分野にも大きな影響を与え続けております。

今回は、異分野間の交流を図るため普段RNA学会に参加されていない研究者をお招きした、特別講演を企画しております。2011年に京都での開催が予定されているRNA Societyの年會に弾みをつける意味でも、ぜひ多くの方にご参加いただきたいと、実行委員一同よりお願い申し上げます。

### 【大会日程】

第12回RNAミーティング(第12回日本RNA学会年会・RNA2010)

会 期：2010年7月27日(火)～29日(木) 3日間

会 場：学術総合センター、一ツ橋記念講堂

<http://www.zam.go.jp/e00/e0000800.htm>

〒101-0003 千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター

懇親会会場：如水会館(7月28日) ※学会会場の隣

日本RNA学会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/rnaj/index.html>

(RNA2010公式ホームページは平成22年3月ごろに公開予定)

世話人：東京大学大学院工学系研究科 鈴木 勉

## CDBミーティング “RNA Sciences in Cell and Developmental Biology” 開催のご案内

来る2010年5月10日(月)～12日(水)に理化学研究所 発生・再生科学総合研究センターにおきまして、第19回CDBミーティング「RNA Sciences in Cell and Developmental Biology」を開催いたします。

本分野の第一線で活躍しておられる研究者を国内外から多数お招きし、「RNA分子」を通じて、遺伝子発現制御プログラムについて共通の理解を得るとともに、世界的な研究者と次世代の研究を切り開く若手研究者や学生が一堂に会して議論を深めることにより、この分野の現状や将来について最先端の議論が展開されることを期待します。

具体的には次のトピックを予定しております。

mRNA Splicing, RNA Export, Translational Control, mRNA Localization, RNA Quality Control, RNA Silencing, Epigenetics, Non-coding RNA

本ミーティングでは、発表演題を公募します。ポスターセッションの他、優秀な演題には口頭発表をお願いする予定です。多くのご参加と演題提出をお待ちしております。詳細はホームページをご確認ください。

### 【概要】

日 程：2010年5月10日(月)～12日(水)

会 場：理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター C棟1階オーディトリウム

オーガナイザー：

中村 輝(理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター)、稲田利文(名古屋大学)、泊 幸秀(東京大学)、中山潤一(理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター)

共 催：文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型)「非コードRNA作用マシナリー」、「多様性と非対称性を獲得するRNAプログラム」

演題申し込み締め切り：2010年3月1日(月)

参加申し込み締め切り：2010年3月15日(月)

ホームページ：<http://www.cdb.riken.jp/cdb-rna/>

本ミーティングについてのお問い合わせ：

CDB学術集会事務局

独立行政法人 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター(CDB) 研究推進部内

〒650-0047 神戸市中央区港島南町2-2-3

TEL：078-306-3010 FAX：078-306-3039

E-mail: [cdb-rna@cdb.riken.jp](mailto:cdb-rna@cdb.riken.jp)

## 日本RNA学会 会報

第21号 (2010年2月)

発行・製作：日本RNA学会 編集幹事

連絡先：九州大学

工学研究院 応用化学部門 井川 善也

〒819-0395 福岡市西区元岡744

電話：092-802-2866(直通)

FAX：092-802-2865

E-mail：yikawa@cstf.kyushu-u.ac.jp